

カメルーンは日本の昭和初期？

今年の4月にカメルーン人の旦那とともにカメルーン共和国から久しぶりに日本へ帰ってきて、カメルーンと日本の子育ての違いで「あれっ？ 日本の子育てってこんなのだらけっ？」と思ったことが2つあった。カメルーンに行く前までは、日本の子育てを当たり前に受け止めていたし、それが一番良いものだと思っていた。しかし、カメルーンに行くと「昭和初期の日本」のような子育てを目の当たりにし、物質的に恵まれていることだけが幸せに繋がるのではないということこそを、改めて実感した。



ベビーベッドではなく

一緒に寝て体温を伝える

カメルーンでは、ベビーベッドをかうお金が無いから」という理由だけではなく、ある程度裕福な家でも、毎晩赤ちゃんは母親と同じベッドで眠る。理由は「常に赤ちゃんの体温を感じていたいから」だと、カメルーン人の友人が言っていた。赤ちゃんといつも一緒にいることで、泣き声の意味をより一層正確に聞き分けることができるそうだ。ちなみにカメルーンでは、父親の体温も赤ちゃんに伝えることが大切と思われていて、父親も一緒に眠ることがある。赤ちゃんが夜泣きした時は、普段子育てで疲れている母親の代わりに、父親があやすることが多いとのこと。果たして日本の父親はこれができるのかと、心配してしまっ。

世界の子育て事情 | カメルーン共和国



Republic of Cameroon

独立行政法人 国際協力機構 JICA北陸のスタッフから見た、日本と世界の子育てについてご紹介します。

レポートはカメルーン人が夫のJICA北陸 手崎雅代さんです

歩ける子どもがベビーカーに乗ることに違和感

カメルーンでは、歩けるようになって子どもを甘やかすことはない。疲れようが、タダをこねようが、歩かせる。母親自身も、面倒でも子どものペースに合わせて一緒に歩く。どうしても疲れたときは、格好が悪くても布に包んでオンブする。そもそも、ベビーカーなんて高価な物は買うことができないし、舗装されていない道路の多いカメルーンでは、ベビーカーはとても不便である。歩く方が理に合っているのだ。だから子どもには自然に任せるのではなく、早い段階から歩く訓練をさせる。

生後、4カ月でハイハイ

骨格の違いもあるかもしれないが、カメルーンでは生後4、5カ月ほどで、自分でお座りをするようになり、それと同時にハイハイを始める。そして大抵生後8カ月ほどで歩き始める。歩き始めるようになれば、母親は子どもをどんと外に連れ出す。歩き始めるようになると、自分の大きな兄弟たち(2、3歳)と一緒に行動するようになる。早い段階から走ることも可能になる。骨格の差だけではなく、アフリカ人と日本人の運動能力や筋力の差はこんなところから違うのではないかと考えてしまっ。



協力：JICA北陸

石川テレビの情報番組「リフレッシュ」でも、世界の離乳食などを紹介。
□8月25日(水)10:00からの「主婦レッシュ」コーナーにて

リフレッシュ

